

東日本大震災にも負けず、三陸の特産品を海外へ (宮城加工技術協同組合)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:宮城県塩釜市北浜4-16-31
- 代表者:事務局長 佐々木 健一
- 資本金:140万円
- 売上高:694万円
- 従業員数:常勤2名
- URL:
<http://www.miyagi-export.jp/item/member.php?fid=17>

①事業概要

<水産加工品の製造・販売>

宮城加工技術協同組合は、仙台市、塩釜市、七ヶ浜町、南三陸町など、宮城県内の水産加工品製造業を中心とする15社で構成される組合である。事業の柱は商品の共同販売や、ユニフォームの共同購買、外国人技能実習生の受け入れなどで、近年、海外販路開拓事業を開始した。同組合は、主に三陸の特産品(アナゴの蒲焼き、ホヤ製品、めかぶ、つぼダイの干物、養殖銀ザケ、ホッケのすり身など)を生産する企業から成り、東日本大震災を経た現在でもなお、海外販路開拓に意欲的である。

②海外展開概要

<香港への輸出>

平成22年10月、ジェットロ仙台が宮城県から受託して実施した「山形・宮城食品試食商談会in香港」への参加がきっかけで海外展開を開始。香港企業1社から正式発注を受け、月2回、合計約450キログラムの三陸の特産品(ホヤ製品、つぼダイの干物、ホッケのすり身など)を定期的に輸出した。輸出時の関税がかからず、日本からの距離も比較的近い香港市場をメインターゲットにした同組合の輸出事業が始まった。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

輸出事業が軌道に乗り始めた平成23年3月、東日本大震災が発生した。絶望的かと思われた海外輸出だったが、ジェットロのサポートにより、平成23年8月、『アグリフードEXPO東京2011』に参加した。原発事故の風評被害で輸出量が落ち込む中、9月にはジェットロ上海とジェットロ青島を訪問し、市場調査を続けたこと、また、今年度に入ってからも、ジェットロが海外バイヤーを仙台に招いて開催した食品輸出商談会(平成24年7月)や『香港フードエキスポ』(平成24年8月)に積極的に参加し、新たな販路開拓先を模索し続けたことが成功要因。

④今後の事業展開について

震災の逆風の中でも、同組合は香港市場の再開拓に意欲を燃やしている。佐々木事務局長は香港に出向き、現地バイヤーとともに、震災前に商品発注のあった現地小売店、日本食レストランなどに取引再開を交渉する努力を重ねてきた。佐々木氏は「三陸産の水産加工品の海外PRは組合の使命。香港では、放射能に関して問い合わせってくるバイヤーは少なくなったが、組合としては、今後もジェットロの商談会などの各種ツールを活用し、香港を中心に三陸の特産品をPRして輸出を継続する」と、意欲に燃えている。



(平成24年10月現在)

データ出所:日本貿易振興機構